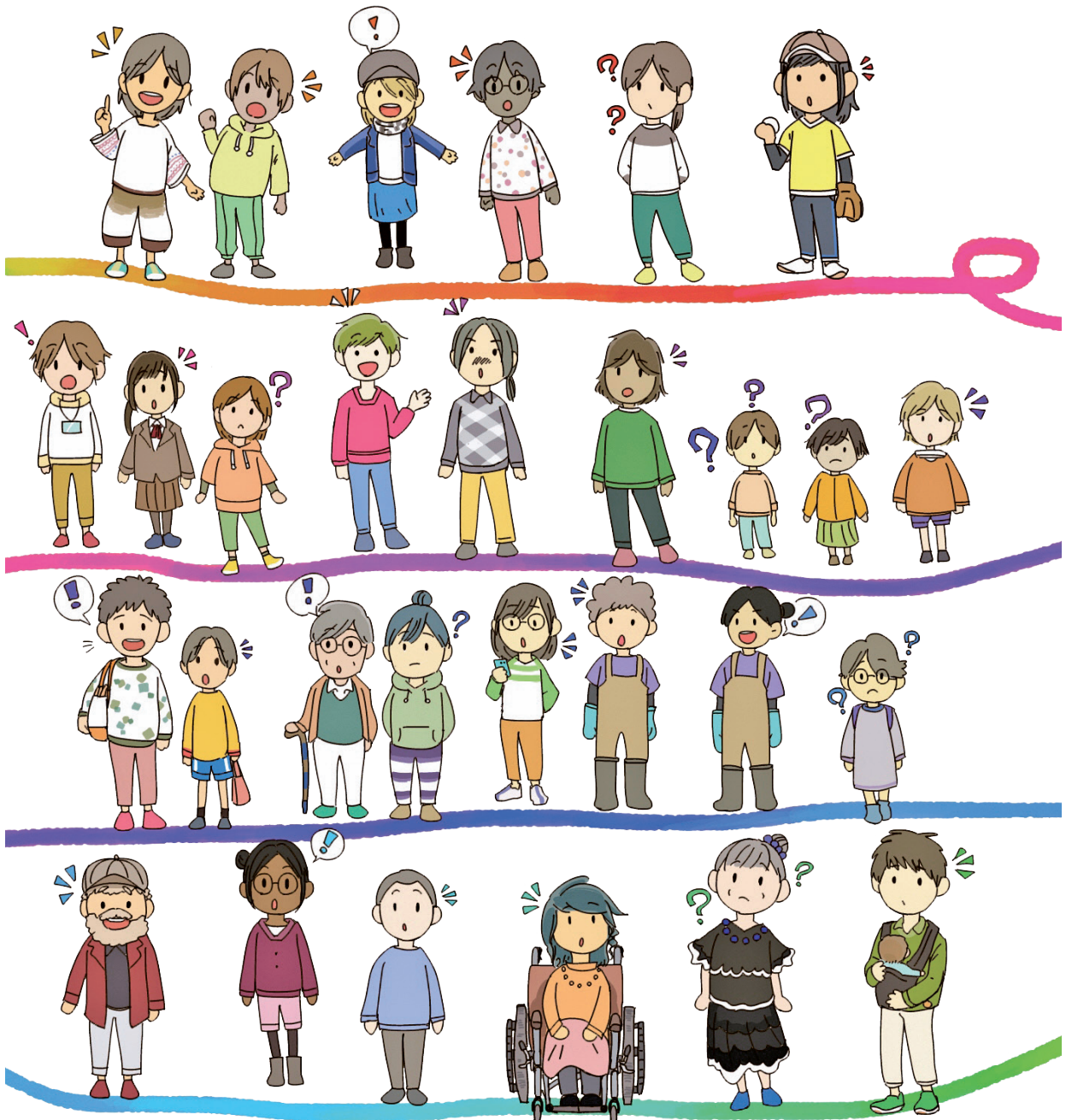


## 気づくことから始めよう

～ジェンダー平等の社会へ～



# 気づくことから始めよう ～ジェンダー平等の社会へ～

「女なんだから…」 「男のくせに…」 —こんな言い方をされたり、聞いたりしたことはありませんか？ 私たちは皆、それぞれの個性を持つ存在なのに、性別によって、生活や仕事の面で制限を受けてしまう傾向があります。社会や文化の中で作られてきた「女らしさ」「男らしさ」という性別に対する考え方を「ジェンダー」と言います<sup>※1</sup>。そして、性別に関係なく、責任や権利や機会を分かち合い、あらゆる物事を一緒に決めることができる社会のあり方が「ジェンダー平等」です<sup>※2</sup>。私たち一人ひとりが自分らしく生きていける社会について一緒に考えてみませんか？

※1 国連開発計画(UNDP)人間開発報告書より  
 ※2 内閣府男女共同参画局「みんなで目指す！SDGs × ジェンダー平等」より

こちらは、とあるカップルのSNSでのやり取りです。



🐱の人は残業をするようですね。  
 🐱の人が夕食を作るのでしょうか？

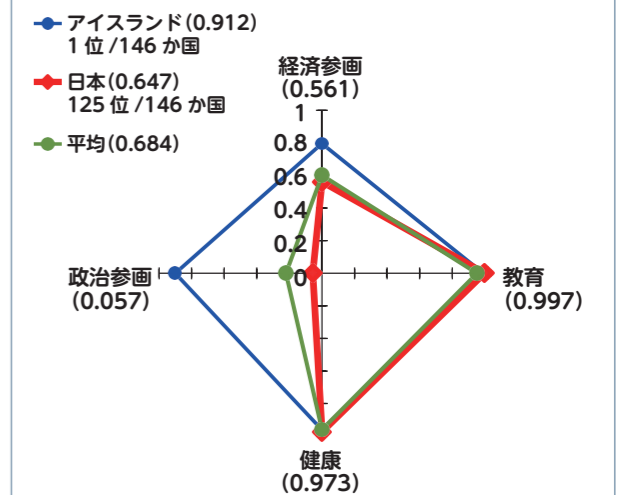
ここであなたは、🐱が男性、🐱が女性だと想像しませんでしたか？  
 もしかしら、それはあなたの「思い込み」かもしれません。

## 日本のジェンダーギャップ指数125位

ジェンダーギャップ指数とは男女格差を数値化したもので、世界経済フォーラムが毎年発表しています。指数は0~1の数値で評価され、スコアが1であれば完全平等、0だと完全不平等を示しています。2023年の日本の総合順位は146カ国中125位で、過去最低を記録しました。

ジェンダーギャップ指数は「経済」「教育」「健康」「政治」の4分野14項目で測定されます。日本は「教育」と「健康」はジェンダー格差が小さいにもかかわらず、「政治」と「経済」では格差が大きくなっています。「経済」では女性の労働参加率は高いのですが、管理職の女性比率が極めて低く、「政治」では国会議員の女性比率や閣僚の女性比率の低さが際立っています。

### ジェンダーギャップ指数(GGI) 2023年



※内閣府男女共同参画局ホームページ「男女共同参画に関する国際的な指数」より

## ジェンダーギャップ解消に向けて

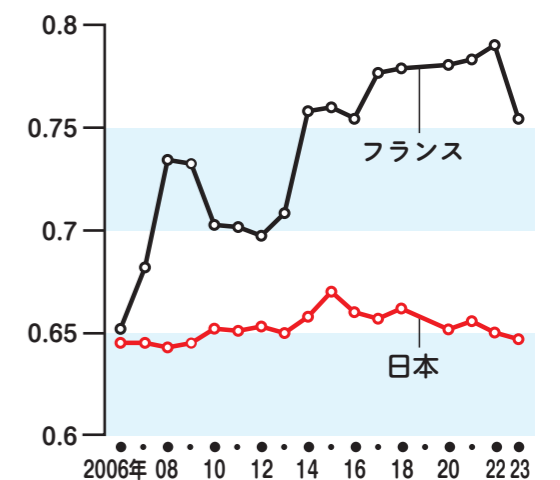
日本をはじめ各国はジェンダーギャップの解消に取り組んでいますが、各国に比べ日本の改善のスピードが遅いため、日本の順位は下降の一途をたどっています。

右の図は2006年から2023年までの日本とフランスのジェンダーギャップ指数の推移を示しています。2006年の時点ではフランスと日本は大きな差がありませんでしたが、フランスではクォータ制<sup>※</sup>を導入することによって、徐々に国会議員の割合が高まりその結果が指数にも表れています。

ジェンダーギャップの解消のために、日本でも、例えば女性の労働参加を促すのみでなく、女性のリーダーシップを促進するためのプログラムの導入、家事や育児を男女平等に負担するための制度の整備など、引き続き総合的に取り組んでいく必要があるのではないのでしょうか。

※議員や企業役員などで、女性の割合が一定になるようにする制度。国会議員や企業の役員の女性比率を増やすため、世界120カ国以上で導入されています。

### 日本とフランスのジェンダーギャップ指数の推移



※男女共同参画白書令和4年版および世界経済フォーラム「Global Gender Gap Report 2023」より作成



私たちの思考や、なにげなく使っている言葉の中に＜ジェンダーの思い込み＞はないで  
 響いています。ジェンダーの壁を乗り越えるための第一歩として、まず自身の＜思い込み＞  
 人から体験談を伺いました。

しょうか。その＜思い込み＞は、職業の選択から家庭での役割分担まで、あらゆることに影  
 に気づいてみませんか。私たちにとって身近なよくある事例を集めるとともに、市民のお二  
 人から体験談を伺いました。

## 仕事と家庭の中で感じた ジェンダーの思い込み

私が医師になったころは、男性の1.5倍の仕事をしてようやく対等に認められて  
 いました。現在は働く環境は改善されましたが、男性は「医師」女性は「女医」と  
 呼ばれるときなどは、いまだ区別されているなと感じます。また子どもが小さい頃  
 は、夫が保育園の送り迎えをしていると「旦那さんは偉いね」と周囲から声をかけ  
 られ、違和感を持ったこともありました。

ただ、アンコンシャスバイアス\*は私自  
 身にもあります。例えば仕事の面では、  
 コロナ禍の3年間、自分が期待する情報  
 だけを集めたくなる「確証性バイアス」  
 があったかもしれません。家庭の面でも、  
 「家をきれいにしないといけない」  
 「食事は栄養バランスを考えないといけ  
 ない」といった、「こうあるべき」とい  
 う思い込みに気づくことも……。もう少し  
 肩の力を抜いてもよいのかもしれないね。

最近では多方面から、「男性だけでなく、  
 女性もメンバーに」という動きがあ  
 ります。良いことですが、女性だから声  
 がかかるとはならず、仕事の成果がある  
 から認められたいと感じる女性も多いの  
 ではないでしょうか。

私の働く保健所の現場では、職種や性  
 別に関係なく、協力しながら一緒に働い  
 ています。一人ひとりが自分らしく、と  
 もに生きていける社会になるとよいなど  
 日々思います。

\*アンコンシャスバイアス…無意識の偏見・先入観・偏向



村上邦仁子さん  
(50代女性)

## 介護を通して気づいた 自分の中のジェンダーの思い込み

佐藤真一さん  
(70代男性)

(写真は「ケアメンの集い」)



民間企業を勤め上げ、9年前に定年を迎えました。退職後、地域に繋がろうと一念発起し、社会福祉士を取得。母の  
 介護をきっかけに「ケアメンの集い\*」に立ち上げから参加するようになりました。その活動を通して男性介護者に特  
 有の困難が存在することに気づくようになりました。例えば、男性介護者は介護される側のニーズではなく、仕事モー  
 ドで成果や効率性を求めてしまいやすいところ  
 があります。

しかし、介護にはどんなに頑張っても報われ  
 るとは限らない現実があり、その絶望感から虐  
 待に繋がってしまう側面もあるように思いま  
 す。他にも、男性は訊くことを恥ずかしくて  
 周囲にSOSが出せず、1人で抱え込んで孤立し  
 てしまいやすいこと。男は感情を出してはいけ  
 ない、我慢しなければならない、と考えて誰に  
 も弱音が吐けないこと…等、多くは男性自身が  
 無意識に抱えているジェンダーの思い込みに基づ  
 づく問題でした。

高齢虐待の被害者の6割以上が男性と言われ  
 ています。その背景には、男性は近所付き  
 合いが少ないことや、世間話が難しい、料理な  
 どの家事が苦手なこともあるように思います。  
 若い時からの家事や育児の経験や地域との繋が  
 りは、その後の自分に返ってきて必ず人生を豊  
 かにしてくれます。そして、男性ならではの悩  
 んみを分かち合える「ケアメンの集い\*」は、貴  
 重な居場所だと思います。

\*親や妻の介護を担う男性（ケアメン）や介護に興味のある方  
 （女性もOK）が集まり、介護を頑張りすぎないための知識や  
 心構えを学んだり、日ごろの介護で困っていることを参加者同  
 士で情報共有したりしている。きよせ社協地域包括支援セン  
 ターが定期的に開催。

## ～ジェンダーの 思い込み～ よくある事例集

### 1 色・形・言葉による偏見

- 女の子はピンク、男の子は青
- 男の子は車や電車、女の子はままごとが好き
- 「女子力」「女医」「男勝り」「女々しい」
- 女の子はハート、男の子は星の模様



### 3 性格・得意分野の決めつけ

- 女子は文系、男子は理数系
- 男性は体も心も女性より強い
- 女性はおしゃべり好き、男性は口数が少ない
- 男性は弱音を吐かない



### 2 求められる振る舞い

- リーダーは男性、補佐は女性
- 稼ぐのは男性、家事・育児・介護は女性
- お茶くみやお酌は女性
- 料理や裁縫は女性、力仕事は男性



### 4 根強い家制度のなごり

- 男性は一家の大黒柱
- 女性は結婚後は夫の苗字を名乗るのが当然
- 長男の責任が重い
- 「お嫁に行く」「〇〇家に入る」





## 令和5年度人権週間記念講座

### ジェンダーギャップ指数とは？

# ともに考えるジェンダーギャップと その乗り越え方



講師：フィッシュファミリー財団ジャパンプログラムマネージャー 草野由貴さん

令和5年12月10日に、人権週間記念講座として「ジェンダーギャップと、その乗り越え方」について考える講座を開催しました。

前半はスライドを使っての講義を通して、「ジェンダーギャップとはそもそも何なのか」「ジェンダーギャップ指数はどのような指標を基に測られているのか」といった基礎知識を共有しました。後半は4人ずつに分かれてのグループワークで、「私たちはどのような社会を目指したいのか」「どうしたら社会を変えられると思うか」を話し合いました。締めくくりに「私のアクションプラン」として、その目指す未来を実現するために必要なことや、すぐに自分にもできそうなことを一人ひとりが考え、具体的に書き出す時間を持ちました。

草野さんの最後の言葉が印象的でした。

「今日、私の話を聞いて勉強になった！では困る。このまま何もしなかったらジェンダー平等の達成に189年かかると言われている\*。それぞれが自分にできることから始めてほしい。」

パワフルな草野さんのメッセージに、日常生活から変えていこう、変えていける、と大変勇気づけられました。



\*世界経済フォーラム『Global Gender Gap Report 2023』より

## 第28回 アイレックまつり講演会

# 「平和とジェンダー」

～家族・人権・個人をどう考えるか～



講師：法政大学名誉教授・前総長 田中優子さん

第28回アイレックまつりで、令和5年10月8日に田中優子さんの講演会が開催されました。満員御礼の中、約150名の方が「人権」についての興味深いお話に耳を傾けました。

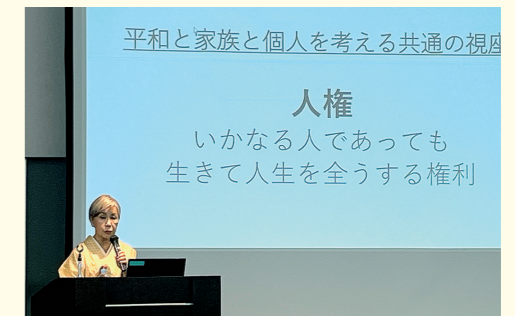
「人権」とは何でしょう？「人権」と聞いてピンと来ない方が多いのではないのでしょうか。「人権」とは「いかなる人生であっても生きてまっとうする権利」、つまり「命の問題」だと言えます。

「天賦人権説」という言葉を聞いたことがありますか？人は生まれながらにして自由平等で幸福を追求する権利等の基本的人権を国家以前の権利として有するという説です。国家から与えられるものではなく、生まれ落ちた瞬間から、あらゆる「個人」に与えられている永久の権利と言えます。

コロナ禍の最中、渋谷区のバス停で座ったまま眠っていた60代の路上生活の女性が、石を入れた袋で殴られ、亡くなったという事件がありました。非正規で働いていた女性は、コロナ禍で職を失っていました。なぜ、ひとつの人生が、このような終わりを迎えねばならないのでしょうか？「生産性」という言葉がありますが、今、その価値観が、現実社会の中に蔓延しているからこそ、このような事件が起きるのではないのでしょうか。個人の権利より富や権力、国の姿とその優劣を優先した場合、個人が「生産性」のみによって判断され、「生産性」のない人間は無用と切り捨てられます。その社会では成績や数値、序列が優先されるのです。ですが、人の幸福や不幸は人の数ほどあるものです。幸福は、他人と比べる物ではなく人の数だけあるものだという多様性の視点を失わないことが大切です。

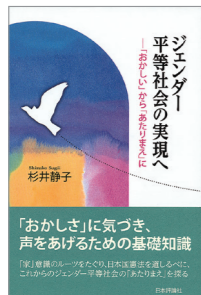
私たちは、どんな人も自由を生き抜ける社会を作らねばなりません。

「人権」とは何か、改めて考える機会をいただきました。世界でも戦争が相次いでいる今、私たちは目まぐるしく変化する社会の中で人生に正解のない時代を生きています。だからこそ、「各個人は尊重されるべき多様な存在」であるという視点を忘れないことが「どんな人も自由を生き抜ける社会」へ向かう第一歩ではないのでしょうか。



## 本の紹介

### 『ジェンダー平等社会の実現へ 「おかしい」から「あたりまえ」に』



杉井静子 日本評論社  
明治の時代から続く「家制度」。この「家制度」から、今も私たちの意識としてある「家意識」から日本のジェンダー規範を読み解きます。著者は、半世紀前から女性の離婚問題などで活躍した、家庭問題の弁護士です。第5章では今後の課題として、憲法の視点も交えながら、ジェンダー平等が考察されています。

### 『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた あなたがあなたらしくいられるための29問』



一橋大学社会学部佐藤文香ゼミ生一同・著 佐藤文香・監修 明石書店  
ジェンダー研究を専攻する大学生たちが、ジェンダーに関する質問に学生の視点から答えたQ&A集。「男女平等をめざす世の中で男子校・女子校が存在する意義は？」「日本はLGBTに寛容な国？」など、ともに考えようというスタンスで私たちが抱きがちな疑問に分かりやすく答えてくれます。

### 『ジェンダー格差 実証経済学は何を語るか』



牧野百恵 中公新書  
ともすれば“べき論”になりがちなジェンダー問題を、エビデンスに基づき丁寧に検証する1冊。ジェンダーに関するさまざまな思い込みが、効果のない制度や政策を生み、場合によってはむしろジェンダー格差を広げている可能性を指摘しています。日本の経済停滞を招いている問題の本質を経済学の視点から暴きます。

### 『失敗しないためのジェンダー表現 ガイドブック』



新聞労連ジェンダー表現ガイドブック編集チーム 小学館  
全国の新聞記者たちが自省の念を込めて作ったジェンダー表現に関するガイドブック。無意識の偏見への気づきを促し、偏見や思い込みの真相にも切り込みます。誰もがSNSで情報を発信することが出来る昨今、自分の表現をジェンダー平等の視点から見直す時に頼りになる一冊です。

## 読者の皆さんから

Ms.スクエア103号「不登校と多様な学びを考える」に多くの反響をいただきました。ご意見・ご感想をいただきまして、ありがとうございます。そのなかから一部を紹介します。

### Aさん(50代 女性)

悩んでいる人、社会的に弱い立場に追い込まれている人に光をあてる企画や記事に好感をもちました。これからも期待しています。

### Bさん(60代 男性)

現在、社会問題となっている、ひきこもりや不登校について、事例を掲載された不登校の特集に、興味深い記事内容でありました。

### Cさん(60代 女性)

(前略) 不登校は子どもと母親のことではないはずです。事例1から4がすべて母親からの記事、なぜ父親の記事がないの? 女性広報だから? 事例5のその後活躍している方の記事はなぜ男性だけ? 今後の市の取組みに期待するとともに地域の一員としてできることをしていきたいです。

編集委員  
から

Aさん、Bさん、編集委員への励ましのお言葉をありがとうございます。そして、Cさん、貴重なご意見ありがとうございました。今後も性別を問わず多くの方々に誌面に登場していただけるよう配慮して参ります。



ご感想募集中

## アイレック相談について

アイレックでは、女性が抱えるさまざまな悩みを相談員と一緒に考えます。電話でも相談が受けられ、未就学児の保育も利用できます(保育は要事前予約)。まずは、話してみませんか。

**女性の悩み相談** 毎週火・水・木曜日 10時～15時50分  
(12時～13時除く) 1人50分

**法律相談** 第1・3金曜日 14時～16時10分  
1人30分 ※新規の方のみ相談可能

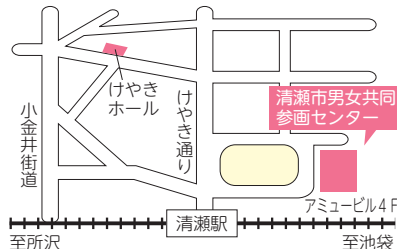
**しごと相談** 第1・3月曜日 10時～14時50分  
(12時～13時除く) 1人50分

※いずれも年末年始・祝日は除く

ご予約は ☎042-495-7002(平日8時30分～17時受付) まで

## 次号105号の発行は令和6年10月1日です。

発行/清瀬市男女共同参画センター  
発行日/令和6年4月1日  
企画・編集/清瀬市男女共同参画センター  
〒204-0021 清瀬市元町1-2-11  
アミュービル4階  
☎ 042-495-7002  
FAX 042-495-7008  
表紙イラスト/こうたろう



- アイレック (ILEC) とは、
- Information (情報)
- Learning (学習)
- Exchange (交流)
- Consultation (相談)
- の頭文字をとった清瀬市男女共同参画センターの愛称です。



アイレック  
Facebook



アイレック  
Instagram

## 編集後記



奥澤

Ms.スクエアに関わって、自分がこれまでいかに様々な呪縛に囚われてきたのかを思い知らされる日々でした。ジェンダーを学ぶことで、自分で自分の呪いを解くことができ、どんどん自由になりました。これまで、ありがとうございました!



中川

「ジェンダー平等」を掲げながら、その理想とは矛盾する自分の言動に気づき、身につまされる今号でした。まさに「気づくことからはじめよう」! 男女ではなく、その人の個性を尊重すること、男女の枠にとらわれている自分を解放すること。まずは自分の意識から変えていきたいです。



高橋

いよいよ最後の編集後記となってしまいました。編集会議は毎回楽しく、とても有意義な時間でした。ジェンダーギャップというと少し堅苦しいかもしれませんが、今号で皆さんの身近にもあることは伝わりましたでしょうか? 読者に戻りますが、変わらず考えていきたいテーマです。これまで、本当にありがとうございました。



湯浅

ジェンダーの思い込みは自分も含めて人の意識に潜むだけでなく社会のあり様にも大きく影響していること、ジェンダーの縛りからの解放は可能性が広がることだと改めて気づきました。

P.4・P.8 似顔絵イラスト/湯浅